

現行計画における取り組みの実績

①みどりの指標について

市街化調整区域内農地などの地域性緑地が大きく減少

- 平成 28 年度末現在の長期目標(平成 32 年)に対する都市公園の整備達成率は 62.7% であり、そのうち市民にとって身近な公園である基幹公園の整備達成率は 42.0% である。
- 樹林地や農地、ため池などの地域性緑地は、現行計画の策定時から面積は減少しており、地域計画対象民有林が-40ha、市街化調整区域内農地が-95.32ha、生産緑地が-2.74ha、ため池が-6.36ha それぞれ減少するなど、全体で-133.43ha と大幅に減少している。
- このため、中間年次(平成 22 年)におけるみどりの確保目標水準である 527.52ha は達成しておらず、今後も長期目標である 622.08ha の達成に向けて、引き続きみどりの確保が必要である。
- 特に施設緑地については、基幹公園のほか国営公園や広域公園などを含めると 18.59ha 増加しているが、長期目標である 481.64ha を達成するためには、平成 28 年度現在の約 208ha から2倍以上の面積を確保する必要があるなど、目標の達成は難しい状況である。

②みどりの保全及び創造について

市民ワークショップによる計画づくりを踏まえたみどりの保全及び整備を推進

- 住区基幹公園である太秦2号公園における自然や野鳥との共生を目指した計画や、大利公園における神社と一体的なオープンスペースを形成する計画など、市民ワークショップによる検討を踏まえた公園整備の取り組みが多数実施された。
- その他都市公園においても、密集市街地整備事業に伴った市民ワークショップによる計画づくりを踏まえた公園整備も実施された。
- 水と緑の都市軸に関しては、寝屋川の親水空間の整備や川勝水辺ひろばの整備など、市民ワークショップによる計画づくりを踏まえた親水空間が整備された。
- 寝屋川親水空間の整備を契機として平成 13 年に設立された「寝屋川再生ワークショップ」、「ねや川水辺クラブ」では、「寝屋川市水辺整備基本構想」に基づき、一級河川寝屋川を中心として、清掃活動や生物調査などによる寝屋川再生に取り組むとともに、水辺空間における市民工事の実施や市内公園整備における計画づくりなど幅広く活動の場を広げており、平成 18 年川の日ワークショップでのグランプリ受賞、平成 20 年日本水大賞 国土交通大臣賞を受賞するなど、数多くの実績が評価されている。

③緑化推進について

緑化推進に加え、みどりの利活用・運営に関する市民主体の取り組みへの展開

- 一級河川寝屋川や友呂岐緑地では、「サクラプロジェクト」によるサクラの保全や植樹が行われ、サクラをテーマとしたまちづくりに資する水と緑のネットワークの形成を推進している。
- 公園花壇の植栽サポーター制度(旧散歩道推進事業)、花いっぱい植栽事業などが実施され、市民協働による公共施設やまちかどの緑化を展開してきた。

- また、生垣や駐車場の緑化を促進する助成制度の構築や、保存樹木の維持管理等に対する助成制度を活用するなど、民有地におけるみどりづくりを促進してきた。
- 市民ワークショップによる計画づくりを実施した大利公園では、公園整備後も地元自治会を中心として、植栽によるみどりづくりや維持管理を行うとともに、地域住民が参加するイベントを多数開催するなど、市民自らがみどりの利活用・運営活動に取り組んでいる。

④みどりの普及について

「市民参加による計画づくり」と「市民協働によるみどりの管理運営のきっかけづくり」を推進

- 環境意識の醸成を目的として毎年開催するエコフェスタや、市内6カ所のコミュニティセンターにおいて実施している「市民緑化教室」において、花木の苗の配布や専門家による育て方に関する講義を実施するなど、市民が身近で実践できるみどりづくりの啓発を実施してきた。
- 平成14年には「公園愛護会報償金支給要綱」を制定し、市民の身近な公園における清掃などの美化活動を促進するため、報償金や清掃用具の支給を実施しており、平成28年度末現在で170公園、101団体が活動している。

⑤緑化重点地区について

土地利用や施設などの特性に応じた緑化モデル優先地区における緑化を推進

- 前述する様々な事業との組み合わせによる緑化推進に加えて、寝屋川市の顔となる寝屋川市駅前周辺のまちづくりや田井西地区の密集市街地における潤いのあるまちづくりに寄与することを目的として、以下の取り組みを実施してきた。

「田井西公園周辺地区」

- 平成13年から平成14年にかけて、近隣公園である田井西公園のトイレ設置や園路整備、または花壇、広場の整備を推進することにより、公園の魅力や利便性の向上が図られた。

「寝屋川市駅周辺地区」

- 寝屋川市駅東地区第二種市街地再開発事業や寝屋川市駅西側駅前広場再整備事業における緑化の推進や寝屋川の親水空間の整備などによって、市の顔となる景観形成が図られた。
 - 寝屋川市駅と国道170号を結ぶ駅前シンボルロードである寝屋川駅前線が整備されたことにより、近隣公園である初本町公園が本市のセントラルパークとしての機能が更に充足されるとともに、都市格の魅力向上や駅前へのアクセス性の向上が図られた。
 - 街区公園である大利公園において、市民ワークショップによる計画づくりを踏まえて再整備を実施し、密集市街地内での防災性の向上が図られた。
- また、自治会による公園管理が継続的に実施されており、今後の市民主体による公園の運営管理における本市の先進的事例として確立された。